

漢字については「読み」の答えが「書き」、「書き」の答えが「読み」になっています。

国語
三——
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

とりぐり組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① とうきようと
の けさ
の きおん
。

② きよう
は、 あつく
もなく、 さむく
もない。

③ ざん
残 □ しよ
がまだまだきびしく、 たいちよう
が わるい
。

④ かんき
冬の □
におおわれる。

⑤ あたたかい
スープをいただく。

⑥ むかし
□、 みやこ
は □ きようと
にあった。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① 彼が□なげた
その□いつきゆう
が□めいあん
を□わけた
。

② 彼の□なげる
□たま
はとても□はやく
□うつ
こ
とができない。

③ □だしや
は、□くらい
□ひようじよう
情でベンチに□かえって
いった。

④ □えんとう
とは□とおく
に□なげる
ことです

⑤ 大島行きのおおしまゆき
□ふね
は、□そくど
を□あげた
。

か

おく

き

送りがなにも気をつけましょう。

さけ

を

うんてん

してはいけない

ということです。

ころんで

しまった。

はこぶ

○

かわ

ぞいをサイクリングする。

みんなですしよに

うんどう

した。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① はは はんたい
□は、□がわの□を□います。

② ばん
ビート□をもとの□に□えす。

③ いえ ちかく さか きゅう
□の□の□は、とても□です。

④ いぬごや つくる いた かって
□を□ために□を□き
ました。

⑤ げつようび ほん へん び らいしゅう
□この□の□きやく□は、□の
です。

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① ギョウザの を 。

② を ために にならぶ。

③ この は、わたしには ます。

④ なみうち ぎわにずっといたから ひ ふが あかく なった。

⑤ たいふう が ちかづき、 は ろう ちゅうい ぼうが でた。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① しよくぶつ
□が、はたけ
□にね
□をはっている。

② は
□がおいしげっている。

③ はたけ
□にだいこん
□をうえる。

④ やま
□の木々がみごとにこう
□よう
している。

⑤ おにぎりで、もの
□かげにかくれる。

国語 三十七 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

つぎ ぶん 次
の 文 の に 当 て は ま る 漢 字 を 書 き ま し ょ う 。

おく 送り が な に も 気 を つ け ま し ょ う 。

① だい す き な し を 、 お ぼ え て い る 。

② も っ て き た あ め を ひ と し く わ け る 。

③ ち ょ う し が よ く な る ま で 、 し ず か に ま っ 。

④ ど れ く ら い う ご き を じ ぞ く で き る か し ら べ る 。

⑤ こ う え ん で か け つ こ を し て い つ と う に な る 。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

あぶら
① であげるのには□がある。

きてき
② □を□ならす。

じんじや
③ この□の□を□しらべる。

ゆ せい
④ □性ペンで□に□を□かく。

やくしよ
⑤ □に□告のとどけをだす。

かみさま
⑥ □にいのる。

たいかい
⑦ □へのさんかを□もうしこむ。

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。
かんじ か

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① その はあの の です。
じゅうしよ でんちゅう さき

② ので、 に して なさい。
くらい はしら ちゅうい あるき

③ な 。
おも とうじようじんぶつ

④ に を 。
ひ あぶら そそぐ

⑤ が 。
かんぬし すむ ところ

⑥ 的 に いる。
じしゆ てき しらべて

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① この□みずうみ
はとても□ふかい。

② □しんや
に隅田川の□かりゆう
に□ついた。

③ □かわ
の□ながれ
が□はやい
ので□およいで
はいけない。

④ 奥多摩□おくたまこ
に□こおり
がはる。

⑤ □ひょうざん
を□みた
ことがある。

⑥ □きょう
の□たいいく
は□すいえい
です。

国語 三十一 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
-------------------	-------------	----	---	---	---

取り組んだ日	月	日
--------	---	---

つぎ ぶん 次 文 の に 当 て は ま る 漢 字 を 書 き ま し ょ う 。
おく き 送 り が な に も 気 を つ け ま し ょ う 。

① ひつじ の ようす を み に い く 。

② と て も う つ く し い お ひ め さ ま で し た 。

③ び じ ゅ つ か ん に い く 。

④ この よう ぶ つ の セ ー タ ー は 、 は だ ざ わ り が よ し あ わ せ な き も ち に な る 。

⑤ た い へ い よ う じ か ん に う か ぶ あ の し ま で 、 と て も こ う ぶ へ な じ か ん を す ぐ し た 。

国語 三十二 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

つぎ ぶん 次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① まみなみ の の を しゃしん におさめる。

② まん いん でんしゃ に のる。

③ どうぐ をうまく つかえず 、 ふ しょうした。

④ トウキョウダルマガエルを そだてる。

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。
かんじ か

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① かぞく
 で の すいじょう
バスに のる。

② お いしや
さんにみてもらう。

③ じかい
の たいいく
のじゆ ぎょう
は、 てつ
ぼうです。

④ じぶん
の たんしよ
はよくわかっている。

⑤ だんだん ひ
が みじかく
なってきた。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① びょういん
で じゆ
しんする。

② こがねいこうえん
小金井公園について□材する。

③ かんじ
テストを うける
。

④ けい
かいなフットワークでボールを とった
。

⑤ ぶんかさい
で、 おうじ
の やく
をすることになった。

⑥ おもった
よりも かるかった
。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① ほん ととのえた
□を□ら、そうじは□おわり
です。

② しゅう ま
□りよう□ぎわにお□きやく
さんが□きた。

③ どうろ は おちて
□にイチョウの□が□いた。

④ ほう ご そだてた の はなした
□か□に、□チョウを□に□。

⑤ らっか き せいれつ あるき
いしの□に□をつけて、□して□
ましょう。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① あまりのこわさに ひめい
をあげる。

② あいて の かなしみ を かんじる ところ
。

③ みらいの とうきょう を そう
ぞうする。

④ きゅうそく をとって、 いき を ととのえる
。

国語 三十七 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① はは びょうき
□が□だったので、かわりに八百屋

さんに □ かいもの に □ いった。

② やまい き
□は□から。

③ にわ こ
□にそう□がある。

④ おくじょう こうてい
□から□をながめる。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① じつ けん で けんきゅう に とりくむ
□ けん で □ に □

② かき み かしら まもる
柿の□をカラスから守る。

③ しゅ び あんしん
□ 備がよいので □ だ。

④ きょう とう やすい
□ は、 なつ □ が □ 。

国語 三十九 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
月					
日					

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① あたらしい はまるで 館のようだ。

② の をれんらく に 。

③ でんのような にとまった。

④ お まいりに かける。

⑤ ピントを 、 をとる。

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。
かんじ か

おく
送りがなにも気をつけましょう。

①
 せかい
を たび
する。

②
 しんぶん
を よんで
、 よ
の なか
のできごとを
 する。

③
 かぞく
で おおしま
へ りよう
に いく。

④
 にほんれつとう
には、 おおく
の とり
がいる。

⑤
 かいがん
ぞいに、 むこう
の きし
まで あるく。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① はな ち でた
□ から □ が □ 。

② じ び か いく
□ に □ 。

③ しんちよう たいじゆう けつ かく
□ 、 □ えきがたを □ 。

④ は み じ た く お わ る
□ をみがけば、身支度が □ 。

⑤ けん し ゆ び
□ を □ でさわってみる。

⑥ お ち し
□ に □ もんがついている。

国語
三十二
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。
かんじ か

おく
送りがなにも気をつけましょう。
き

① せんしゆのかつやくに きたい
している。

② しんぱい
 ごとを そうだん
する。

③ あいて
 のことを かんがえて こうどう
する。

④ しんぶん
 が はい
たつされた。

⑤ めんだん
 の てがみ
を くばる
。

国語 三十一二十三 (書き)	第三学年の漢字(書き)	名前	年	組	番	とく 取り組んだ日 ひ	月	日
----------------------	-------------	----	---	---	---	-------------------	---	---

つぎ ぶん 次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① □ とうきようとちよう 庁は、 □ しんじゅくく にししんじゅく にちようめ □ に ある。

② □ きゅうしゅう の □ ふく おか □ けん から □ きました。

③ □ お □ とう ふを □ にちよう □ かい に □ いく。

④ □ めい れいをかける。

⑤ □ とう お □ だいず ふは、 □ という □ まめ から □ つくられる。

国語 三十一二十四 (書き)	第三学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

つぎ ぶん 次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① □ はし をわたると浅草 □ えき が □ みえて くる。

② □ みなと の □ ちかく にあるゆうびん □ きよく 。

③ □ にほんばし ゆき のバスに □ のる 。

④ □ じょうせん した □ ふね が、小笠原 □ おがさわら に □ むけて □ しゅつこう した。

⑤ □ ほうきよう を □ つかって □ はんたい がわに □ いく 。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

おう
① □ だん □ ほど
をわたる。

こうてい
② □ の □ ちゅうおう
を □ むく
。

すすむ ほうこう
③ □ □ を □ きめる
。

しんろ
④ □ を □ けつてい
する。

よこ
⑤ □ にもつを □ に □ うごかす
。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① うた れんしゅう
□の□をする。

② あそぶ
□ときのリールを□で□きめた。

③ ゆうえんち
□で□。

④ さく
□せんを□ねる。

⑤ おどりを
□ならう。

⑥ なつやすみ
□は、□あさ
□のうちに□べんきよう
□した。

つぎ ぶん

次の文の

あ

に当てはまる漢字を書きましょう。

おく

送りがなにも気をつけましょう。

き

①

じゆ

ぎよう

が

おわった

ら、

としよいいん

は

あつまって

ください。

②

かかり

の

しごと

が

おわった

。

③

おう

に

つかえる

。

④

としよかん

で

ほん

を

よむ

。

⑤

しゅうかい

にかん

けい

のある

ひと

は

しゅうぎょう

して

ください。

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① へいわ
をねがう。

② しき
をたてて、 なんばい
になるかを けいさん
する。

③ たいら
な めん
を うえ
にする。

④ もんだい
がたくさんある。

⑤ とい
と こたえ
。

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① これはゆうめいな が ピ
アノです。

② わたしは に 、そのばから 。

③ このおもちゃは したときはち
やんと 。

④ 過 の をふり 。

⑤ まがりかど まで 。

国語
三—三十
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前
年 組 番

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① おもい にもつ
を 背 せ おう
。

② おきて
すぐに たいじゅう
をはかる。

③ きりつ
をして あさ
のあいさつをした。

④ りようほう
の はこ
を あける
。

⑤ こばこ
をつみ かさねる
。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① □ むかし は すみ で ひ をたいて ゆ をわかした。

② せん とう のおふろは ひろくて きもち がいい。

③ □ せきたん を はこぶ のに く ろうした。

④ □ くるしそう だったので、 たすけ にいった。

⑤ □ にがい くすり を のむ 。

⑥ いきおいをつけるために □ じよそう をとる。

国語
三十二
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① その□の□は、□に□。
ぎん さら しょうわろくじゅうねん つくられた

② □の□が□。
だいいじゅつかい うんどうかい はじまった

③ □の□を□いる。
かいし あいず まって

④ ドアを□。
あける

⑤ □のページを□。
だいいっしょう ひらく

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

ぶひん
① がなくならないように する。

へや
② の に がたくさんある。

しなもの
③ を に 。

しんで
④ かぶとむしが しまった。

あきない
⑤ がうまくい。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① たいよう
太陽がのぼった。

② おばけに おい
かけられるゆめを みた
。

③ かせき
□をたまたま ひろった
。

④ りよう
□を つい
かする。

⑤ お れい
□の てがみ
を かく
。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① ひつ
□ じゅんを しらべる
□。

② くん
よしの □ は ふで
□ の □ つかいかた
がうまい。

③ ぴつ
えん □ と けし
□ ゴム

④ きみ
□ は なんびよう
□ で ぜんぶ
□ の □ もんだい
をとけますか。

⑤ すべて
□ の □ みず
□ をつかって ひ
□ を しようか
□ した。

国語
三十二十六
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

のうさぎよう
① をして、あせを 。

じ どう
② 児 が する。

たかおさん
③ 高尾山に 。

かつ もの
④ もいれば もいける ももの もいる。

しょうしや
⑤ オリンピックの 。

国語
三十一二十七
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

とり組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① この□の□はとても□。
くすり あじ にがい

② □には、□がたくさんある。
りかしつ やくひん

③ □にはどんな□があるか□。
ほか いみ しらべる

④ □の空似。
たにん そらに

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① いのち
□の□たいせつ
さをしる。
。

② ぐうぜんのさいかいに うんめい
をかんじる。
。

③ こうたい
□でへやの□おもて
にでる。
。

④ しらべた
□けっかをひょう
にあらわす。
。

⑤ ともだちの かわり
に しゅつ
せきする。

つぎ ぶん 次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく 送りがなにも気をつけましょう。

① みどり いろの を 。

② しゅっぱつ してしばらくすると、れっしやは の やま の なか に はいった 。

③ かけっこで いっちゃん になった。

④ ゆうめい な かいじょう でピアノの はっぴようかい を する。

⑤ ある な か無いか、かくにんする。